

## ●農学部

### 1. 教育研究上の目的

本学部は、植物・動物の生命に関する基礎から応用までを科学し、それらを農学の発展に資することを目的としている。同時に動植物の育種、生産、加工など生産領域ならびに人と動植物との共生や生物介在療法など学際的領域を教育研究し、豊かな心と実学的知力を養い国内外において地域リーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

農学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下のことに配慮しながら、教育課程を編成し、これに従い教育を行う。

- (1) 学生が総合的で幅広い知識を持つように、研究室配属前の学生に対し、学部共通科目を開講し、幅広い分野の教育を行うとともに、研究室配置後においても学科共通科目やコース選択科目を配置することで、幅広い分野の教育を受けられるようにする。
- (2) 強い好奇心と探究心、諸問題への高い見識と展望を持って、自ら解決する能力と総合的な判断力を持った学生を育成するため、講義科目と実験・実習、演習科目及び卒業論文を効果的に配置するとともに、学習成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、就農・キャリア科目及び学外実習科目を開講する。
- (3) 各学科で定める専門的知識と能力が身に付くよう、各学科のカリキュラムポリシーに従い専門科目を配置する。

## ●農学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、安全で信頼性の高い、安心、安定した農業生産のため、農作物の特質、栽培技術等の学理を教育・研究し、実学的な教育と積極的な課外活動を通して、自己の適性を発見し、持続可能な次世代型農業を開拓、国内はもとより世界の農業を中心とした広範囲な分野で羽ばたくことのできる人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

農学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、本学科では、全ての学生に農業・農学に関わる広範な知識を修得させるため、専門基礎科目及び専門科目を設け、作物生産のみならず環境保全に果たす農業の役割の重要性を理解させる。さらに実践的専門知識を修得させるために、実験、演習、農業実習のほか卒業論文を必修とし、農業における広範な知識と理解力を身に付けた人材を育成するためのカリキュラムを設ける。

- (1) 農業・農学に関わる広範な知識を理解させるための全学共通科目、学部共通科目、学部専門科目、学科基礎科目。
- (2) 農業生産、環境問題などの諸問題を理解させ、問題解決能力を修得させるための専門基礎科目。
- (3) 専門基礎科目などの知識を基に、実践的専門知識を修得させるための専門コア科目。
- (4) 論理的な思考力、表現力、討議力、さらにはコミュニケーション能力を修得させるための演習、卒業論文などの総合化科目。

## ●畜産学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、動物の生命現象の本質を追究する生命科学と生産物の生産から流通までの食料生産を追究する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学の領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

畜産学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 動物の生殖、遺伝育種、生理など、動物の生命科学に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目。
- (2) 動物の飼養及び衛生など、動物の生産管理科学に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目。
- (3) 畜産物の利用及び動物産業の経営に関する専門的な知識と実践的な技能を修得させるための科目。
- (4) 実験、実習、演習、並びに卒業論文作成など、理解力、知識・技能の活用力、課題設定力、問題解決力、表現力、コミュニケーション能力を修得させるための科目。

## ●バイオセラピー学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、人と動植物とのかかわり、すなわち動植物との共生、動植物の活用による生活の質の向上、動植物を介しての癒し、さらに動植物を介在させた療法にまで及ぶ学際的な領域に関する教育と研究並びに実践を行い、国内外においてこれらの領域で活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

## 2. カリキュラムポリシー

1、2年次では、農学を基盤としたバイオセラピーの考え方及び基礎知識を修得するために、3分野の基幹となる講義及び実習を中心に展開し、更に討論の機会を設け対話の手法を身に付ける。3年次では、研究室に所属し、各分野が展開する人と動植物との関係性に関する専門的な知識、技術を学び、各自の研究課題を設定する。4年次では、それらの研究課題に対して分野を越えた指導を受け、学際的な研究を展開することで、科学的アプローチから社会の諸問題に取り組む能力を身に付けることができるカリキュラム体系となっている。バイオセラピー学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) バイオセラピー学の理念とその考え方及び基礎知識を、農学的見地から修得するための科目。
- (2) 討論を盛り込み、円滑に対話できる能力を修得するための科目。
- (3) バイオセラピー学の実社会での活用や職業領域へ応用できる能力を身に付けるための科目。
- (4) 人と動植物との関係性に関する学際的な研究能力を有するための科目。
- (5) 環境と人が直面している諸問題を解決できる能力を身に付けるための科目。

## ●応用生物科学部

### 1. 教育研究上の目的

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物と化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

### 2. カリキュラムポリシー

応用生物化学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、総合教育科目に全学・学部共通科目、基礎科目（リメディアル教育科目）を学部として共通に配置し、各学科のカリキュラムポリシーに従った科目を設置し、以下のことに配慮しながら、教育課程を編成し、これに従い教育を行う。

- (1) 広範囲な分野の教養知識と語学科目・全学共通・学部共通（リメディアル教育科目）の総合教育科目を配置している。
- (2) 各学科の専門の教育目標、ディプロマポリシーに従った学科独自の科目が配置している。
- (3) 問題の発見・解決、計画と実行力と考察・表現力を養うための卒業論文を必修科目として全学科で配置している。

## ●バイオサイエンス学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、基礎から最先端の生命科学の知識と技術を習得し、生命現象を本質的に理解し、生命科学を利用して社会貢献できる人材及び研究や開発等生命科学領域で幅広く活躍するための礎となる深い洞察力と問題解決能力を身につけた個性豊かな人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

バイオサイエンス学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 広範な分野での基礎的知識と基本的な学習能力を獲得するため、また専門科目を意識させ専門を学ぶ重要性を理解するための科目。
- (2) 生命科学分野で必要とされる専門知識を修得するための科目。
- (3) 演習、実験、実習を通して実践的専門知識及び技術を修得するための科目。
- (4) 専門知識を活用し、課題設定・解決する能力、表現能力、コミュニケーション能力などを育成するための科目。
- (5) 国際化に対応できる実践的な語学力を修得するための科目。

## ●生物応用化学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、化学と生物学の素養と知識を基礎に生命現象から環境問題までを多角的に理解・解析できる人材を養成する。その目的を達成するため、食料・健康・環境・資源エネルギーにかかわる諸問題を対象として、基礎から応用にわたる実学的教育・研究プログラムに基づいた教育をする。

### 2. カリキュラムポリシー

生物応用化学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 化学と生物の基礎力を固めるための基礎科目。
- (2) 食品科学、動植微生物の生理学、環境科学に関する応用力を養う専門科目。
- (3) 実践力を養うための実験科目。
- (4) 問題発見や解決、計画と実行力、考察力と表現力を養う卒業論文。

## ●醸造科学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、わが国唯一の醸造・発酵技術関連の高等教育研究機関である。微生物利用産業における、伝統技術から最新のバイオテクノロジーに至る幅広い分野の教育研究を行なっている。当該分野の基礎知識及び総合的技能を有する、醸造・食品・微生物利用産業の発展に寄与する人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

1、2年次は基礎科目として、醸造微生物学、有機化学、生化学などを学び、微生物と生命現象の全体像を把握する。また醸造科学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、全学年を通じて以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 食品化学など食に関する科学に関連する科目。
- (2) 醸造・食品産業関連の微生物を用いた環境浄化・燃料生産に関する科目。
- (3) 広く酒類、食品、環境、創薬などの微生物関連産業にかかわる専門科目。

## ●食品安全健康学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、食の安全と健康機能を統合した学問領域を科学するため、幅広い基礎科目を基盤とし、多様な専門コア科目による教育を展開することにより、食の安全・健康上の問題解決力を備えた食品技術者・研究者・教育者・行政官となり得る人材育成を行う。

## 2. カリキュラムポリシー

食品安全健康学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 食の安全と健康機能の研究に必要となるしっかりとした学問的基盤のうえで論理的思考能力を修得させるための科目。
- (2) 豊かな語学力を身に付けさせ、さらには、ドメスティックな視点にとどまらずグローバルな観点から専門領域を理解していくための科目。
- (3) 食品素材を探求する農学を活かし、食品学を基盤とした食に対する深い理解力・洞察力を養うための科目。
- (4) 食の安全と健康機能を理解するため、生体環境を考慮した健康科学に安全学を融合させた新たな学問領域を構築していくための科目。
- (5) 先端的課題を題材とすることで、これに対する問題解決力を養い、論理的な思考をもとに表現し、社会に対する情報発進力を育成するための科目。

## ●栄養科学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、食品に含有される栄養成分・非栄養成分が生体に与える影響を理解し、食品の調理、加工、食事の提供などに応用されるまでの理論と技術の習得や、人間を対象に、健康の保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究し、実践的な理論を科学し、技術を習得することを目的とする。これらの知識や技術にプラスして「高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持・増進のための栄養指導者」としての管理栄養士養成を行う。

### 2. カリキュラムポリシー

栄養科学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 栄養学、食品学、農学、医学の基礎を理解するために必要かつ多様な基礎科目を配置し、管理栄養士養成のための専門科目。
- (2) 食品の特性、調理、加工、食事設計など、食品を利用するための理論と技術、並びに、健康の保持・増進や生活習慣病など諸々の疾患の予防と治療に必要な理論と技術を修得させるための実験・実習科目。
- (3) 管理栄養士に必須な課題設定力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などを、研究を通じて修得するための卒業論文。

## ●地域環境科学部

### 1. 教育研究上の目的

本学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術を確立することを目指すものである。さらに、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

地域環境科学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、また学部を構成する3学科において共通して理解すべき学識を修得するために、以下のことに配慮しながら、教育課程を編成し、これに従い教育を行う。

- (1) グローバルな地球環境問題とローカルな地域環境の関係、人間活動と自然環境の関わり、地域づくりの理念と目標に関する理解を深める。
- (2) 実際の地域体験（現場・フィールド体験）を通じて、地域の自然環境や社会的環境への理解を促し、地域環境や地域問題解決への関心・意欲を高める。
- (3) 地域づくりに関わる技術者として、人類社会における技術の位置づけと社会的責務及び倫理観を修得する。

## ●森林総合科学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、人間と森林の共生に貢献できる人材の育成が、教育・研究目標である。森林そのものと環境循環について科学的に理解することからはじまり、森林のもつ資源生産的機能と環境循環機能を総合的に考究するなかで、これからの循環型社会の創造に貢献できる専門知識を養う。

### 2. カリキュラムポリシー

森林総合科学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 「森林から学び、森林に学び、森林を学ぶ」をモットーに、大きくは「森林環境保全」、「森林資源生産」、「森林資源利用」、「森林文化情報」の4つの分野の基礎を共通して理解するための専門必修科目。
- (2) 森林・林業・林産業などの専門技術者として必要な能力を向上させるための選択科目。実践技術や知識を深め、問題発見能力や解決能力並びに表現能力を増強するための実験実習科目や演習林実習。
- (3) 研究計画の立案、実験や調査研究の実施、文献検索、論議や考察などを実践して専門性を高め、論文の執筆、発表等を体得することにより、森林・林業・林産業

に係わる専門家としての総合力を修得するための卒業論文。

## ●生産環境工学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

生産環境工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域を人間の生活、自然及び生物生産の共存空間と捉え、土地や水や生物などの地域資源を生態系に配慮して有効利用・保全するための理論と技術に関連する科目。
- (2) 衛星画像データを含めた広域情報及び土中の水の動きや微気象の局所情報の両面から、環境情報を収集、解析、評価し、それを生物生産に利用・応用するための科目。
- (3) 構造力学、土質力学、水理学、土木材料学を基礎とした、農業生産環境・生活環境に関わる基盤整備・維持管理についての科目。
- (4) 本学科が対象とする生産・加工・流通やそれらの環境に関わる機械システムを、エネルギー効率や環境負荷も考慮しながら、設計・開発・評価・活用するための科目。

## ●造園科学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和共生社会の実現をめざし、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び材料に関する理論と応用を教授し、豊かな感性とデザイン力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

造園科学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、次のような専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域環境を構成する植物、土、水の基本要素にかかわる基礎教育、地域環境問題に関する見方や地域環境科学の学習への動機づけをねらいとする基礎科目。



- (2) 造園学における計画や設計に関わる基本理論と専門理論、造園空間創成のための手法論を修得する環境計画・設計分野の専門科目。
- (3) 生物や生態に関わる基礎知識、造園植物や造園植栽、緑地生態などに係わる基礎理論と専門理論、造園空間創成のための技術論などを修得するランドスケープ資源・植物分野の専門科目。
- (4) 造園建設・施工に関わる基礎理論と専門理論、造園空間創成のための技術論などを修得する景観建設・技術分野の専門科目。
- (5) 造園学を構成する3つの専門分野を統合し、造園学を横断的に理解し、実践的・実務的な応用力を修得する総合化科目。

## ●国際食料情報学部

### 1. 教育研究上の目的

本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築及び資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開等の分野で活躍できる人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

国際食料情報学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を身に付けた人材を育成するため、以下の方針のもとにカリキュラム編成を行い、これに従い教育を行う。

- (1) 自然科学・社会科学両分野の科目を配置して総合的な知識を修得するとともに、海外での業務遂行に必要な語学の修得や、実践的な知識や経験及び技術を身に付けるために国内・国外において農業実習を修得させる。
- (2) 食料の生産・加工・流通に関わる経営・マーケティングの専門知識と基本技術を修得させる。
- (3) 農業、食料及び環境をめぐる諸問題を分析し、対応できる専門知識と社会性を修得させる。
- (4) 情報処理システムの設計・開発にかかわる基礎知識・基本技術を修得させる。
- (5) 異文化理解及び国際的視野の形成を図るため、実践的な語学力を修得させる。

## ●国際農業開発学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて国際貢献のできる人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

国際農業開発学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 自然科学・社会科学両分野の総合的な知識を修得するための科目。
- (2) 海外での業務遂行に必要な語学や、海外の現状を理解するために必要な知識を修得する科目。
- (3) 実践的な知識や経験および技術を身に付けるための農業実習科目や実験科目。

## ●食料環境経済学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、社会科学、とりわけ経済学的手法を用いて、「農業」、「食料」及び「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」及び自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

食料環境経済学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 社会科学的思考に必要な知識と実践につながる能力を修得するため基礎的科目。
- (2) 食料環境経済学分野に必要な総合的知識と実践につながる能力を修得するための科目。
- (3) 公務員、団体職員、教員、研究者、企業人等として食料環境経済学分野で活躍するために必要な知識と実践につながる能力を修得する科目。

## ●国際バイオビジネス学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、人類の生存に最も重要な食料・環境にかかわるビジネスの教育・研究を行う。食料の生産、加工、流通、支援サービス、さらには生態系を踏まえた地域環境・資源の分野において持続的な経営発展を推進するバイオビジネスの専門的知識と技術を身につけた国際的人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

国際バイオビジネス学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 食料の生産・加工・流通に係わる経営・マーケティングの専門知識と基本技術を修得させる科目。
- (2) 情報処理システムの設計・開発に係わる基礎知識・基本技術を修得させる科目。
- (3) ビジネスを取り巻く自然・社会環境の評価・保全、地域資源の持続的活用に係わる基礎知識・基本技術を修得させる科目。
- (4) 異文化理解及び国際的視野の形成を図るため、実践的な語学力を修得させる科目。

## ●生物産業学部

### 1. 教育研究上の目的

本学部は、人類生存の基である生物産業にかかわる生産、加工、流通、経営を取り巻く自然科学的・社会経済的現象を教育研究の対象とした生物産業学を基盤として、文理融合の教育体系のもとで、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、その解決方向を示すことの出来る地域社会・国際社会に貢献しうる人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

生物産業学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「生産—加工—流通・ビジネス」の学部教育理念の下で、ディプロマポリシーに掲げた能力を身に付けた人材を養成するために、以下のことに配慮しながら、教育課程を編成し、これに従い教育を行う。

- (1) 広範で多様な基礎科目と各学科の特徴ある専門科目の履修を通して、生物産業に関わる専門を学ぶことの意義を認識させる。
- (2) 専門基礎科目及び専門科目を学び、時代に適応した高度な専門知識を修得させる。
- (3) 演習、実験、実習、ゼミナールを通して実践的専門知識と技術を修得させる。
- (4) 課題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを自主的に育成するために、卒業論文を必修とする。
- (5) 初期教育の段階から将来への進路を想定した履修モデルを編成し、それに向けた実践的専門知識を修得させる。

## ●生物生産学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、多様な陸圏領域の教育・研究が実践できるように配置した植物系、動物系、資源・環境系の分野において、新しい生物資源の開発や多様な環境に配慮した生物生産力の拡大、生物資源機能の新しい応用等にかかわる理論と技術を教育研究し、国際的な視点で地域産業の発展に貢献できる人材を養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

生物生産学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 生物生産に係わる総合的な知識を得るために、1・2年生に対しては人文・社会科学の領域を含む基礎科目。3・4年次には、1・2年時で得られた知識をもとにより高い生物生産に係わる専門に関する科目。
- (2) わが国有数の生物生産や生物資源が豊かな地域に位置している利点を活かし、これらの生物・環境資源を活用した実験・実習・演習科目。

- (3) 生物生産に係わる課題について総合的な判断能力や課題の研究結果を他者に伝達する能力を学ぶための科目。
- (4) 与えられた課題を国際的に発信できる能力を養うための科目。

#### ●アクアバイオ学科

##### 1. 教育研究上の目的

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と、それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等に資する人材を養成する。

##### 2. カリキュラムポリシー

アクアバイオ学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 水産生物の生物学的特徴や生態学的特徴について総合的で幅広い知識、並びに水産生物の増養殖について基礎的知識や技術を研究室配属前の学生が身に付けるための科目。
- (2) 水産生物の生物学的並びに生態学的特徴、そして増養殖についてより高度で専門的な知識や技術を修得するために、研究室配属後の学生が身に付けるための科目。
- (3) 学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるように、自分の考えを伝えるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けるための科目。

#### ●食品香粧学科

##### 1. 教育研究上の目的

本学科は、オホーツク地域の農水畜産資源を活用した食品や香粧品の製造・加工法、製品の安全・安心に関わる微生物学的研究、機能性食品や香粧品の性状と機能に関する生物化学的研究に重点をおき、基礎から応用まで総合的な研究教育を行い、産業界で即戦力として活躍できる人材を養成する。

##### 2. カリキュラムポリシー

食品香粧学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 食品や香粧品の素材となる生物資源の特性を化学の視点から理解するための基礎科学に関する科目。
- (2) 食品や香粧品の素材である生物資源や原料がどのように生産されるかを理解するための科目。

- (3) 食品の摂取や香粧品の利用が生体にどのような影響を及ぼし、安全で安心な製品とはどのようなものかを理解するための科目。
- (4) 食品・香粧品を製造するための生物資源の利用と加工に関する科目。
- (5) 原料あるいは製品化された食品や香粧品の特性や機能性を明らかにするための技術の修得に関連する科目。
- (6) 研究計画のたて方を学び、得られたデータの処理方法や論文の作成の仕方を学ぶための科目。

## ●地域産業経営学科

### 1. 教育研究上の目的

本学科は、農林水産業、食品加工業、自然を活かした観光業、環境ビジネスなど、地域産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、そうした生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材をオホーツクの地・産業をフィールドとして養成する。

### 2. カリキュラムポリシー

地域産業経営学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域産業経営学科では、生物産業の持続的発展と地域の活性化への基礎となる経営学・経済学に関する理論や実践的な分析手法を修得するための科目。
- (2) 生物産業の持続的発展と両輪をなす地域ビジネスに係わる理論と実践的方法を修得する「地域産業経営」について学ぶ科目。
- (3) 地域連携を通じた活性化の諸方策を修得する「地域産業連携」を体系的に学修する科目。